

平成30年6月

各チーム指導者 様

長崎県小学生バレーボール連盟
会 長 中 村 昭 夫
(公 印 省 略)

体罰・暴力・暴言等の撲滅について(厳重注意)

皆様方には、日頃から小学生バレーボールの指導・普及にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。

平成30年度が出発した矢先に、県下で体罰・暴力・暴言の事案が発生しました。標記のことについては、日小連から、「体罰・暴力・暴言 撲滅宣言」が出され、「スポーツは楽しいSTOP! 体罰」を啓発している最中に発生していることについて残念でなりません。

事案(通報内容)

県下のある地区での4月の練習会(練習試合女子6チーム参加)において3チームの指導者(監督・コーチ)が、次のような暴力をしていたという匿名の通報があった。

- 1、叩く。「クソプレーごとに頬をピンタしたり、頭をたたいたりした。」
- 2、押し倒す。「肩をどんと押して、床に完全に倒す。」
- 3、引きずり回す。「洋服をつかんで、引きずる。」

第1回県小連倫理委員会において事実関係を把握するため、該当者及び関係者に出席してもらい事案内容について調査をしました。事案内容について多少の差異はありましたが、事実の確認がとれました。

第2回倫理委員会において、経過の報告と処分等について検討し、倫理規定のレベル3に該当する行為であることを確認しました。

第3回倫理委員会において検討を重ねた結果、該当者3名に対して、1年以内(期間の違いあり)の指導及びベンチ入り停止処分を通達しました。また、停止期間中に日小連主催の指導者講習会を受講することとしました。

体罰等の事案が発生すると該当者だけの問題でなく、チームの子どもや関係者に多大の被害を被ります。私たち小学生バレーボールの指導者の目的は何なのでしようか。チーム力をあげることも一つかもしれませんが、一番の目的は、バレーボールを通して子どもたちの人間形成を行っていくことだと考えます。チーム内での規律・礼儀などの人間力を高めることではないでしょうか。子どもの心身の発達段階を逸脱した勝利至上主義に陥ってしまうことで問題が発生しているように思います。再度、本年度長崎県小学生バレーボール連盟運営基本方針を見直していただき、体罰・暴力を許さない体制づくりをお願いいたします。